

イノベーション・コモンズ（共創拠点）の考え方について

- 知と人材の集積拠点である国立大学等は、その教育研究活動を「**独創**」から「**共創**」へと変化させ、**地域・社会・世界へ一層貢献**していくことが必要。このため、「第5次5か年計画」では、**大学全体を多様な主体と共創する「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」へと転換**する大学改革を目標とした。
- 即ち、「**イノベーション・コモンズ**」とは、**キャンパスをイノベーションを生み出す拠点とするための取組の方向性**であり、各大学においては、その実現に向けて絶え間ない取組が期待される。

共創拠点

- **共創＝ビジョンを共有し、各々が責任をもって取り組み、新たな価値等を生み出すこと。**
- 個々の共創活動は共創拠点の要素。共創のために整備された施設等を含め、**共創のコンセプトのもと、キャンパス環境をどのように変えていくのか、大学全体として検討が必要。**
- 様々な主体による共創の「場」も、**大学施設等に限らず、地域・企業等の学外施設等の利用や、多様な財源による施設整備・維持管理等も考えられる。**

共創活動は多種多様。例えば…



- 自治体
- 大手企業
- 地元中小企業
- 地元生産者
- 他分野
- 他大学等

ソフト・ハード一体

- **大学のビジョン・各種計画等と、教育研究活動、キャンパスマスタープランや個別の施設計画が連動し、大学全体で、共創のコンセプトに応じた活動とキャンパス・施設が考えられている。**
- 共創活動の運営に伴う組織・人員体制を整備。

キャンパス全体

- **大学のビジョン・各種計画等に共創が位置づけられ、特定の部局や分野等に限定されず、全学的に取り組む。**
- **キャンパスの様々な場で共創が起こり得る環境がある。**

有機的な連携

- **教育・研究・社会実装が有機的なものとして繋がっている（活動面の連携）**（例：学部から共創をコンセプトにした教育を実施し、研究・実装段階の基礎となる）
- **キャンパス全体で、人の流れを意識した配置、興味関心を引き付ける工夫、活動の可視化等が行われ、個々の施設等の相互作用がみられる。（空間的連携）**

オンラインと対面のハイブリッド

- **研究設備・機器の遠隔利用・自動化、遠隔授業、管理業務のスマート化等を可能とする環境を整備。これらを生かし、キャンパス内外のネットワークを構築・活用。**

地域とのつながり

- **大学の施設・設備やグラウンド等の共有化、地域の施設跡地や空き区画の有効活用など、大学が自身や地域の資源を生かしながら、地域に存在し関わっている。**

